

知的障害特別支援学校における個別の指導計画を生かした 還流型電子システムの開発

（ICT の活用を通して）

○立石 宣暁 山元 薫
（静岡県立浜北特別支援学校） （静岡大学教育学部）
KEY WORDS: 電子システム開発 教育課程 授業計画

（目的）

知的障害教育課程は、指導内容と指導形態が異なるいわゆる二重構造を取り、従来このことが「内容と方法の関連を分かりにくくさせている」（特総研 2006）という指摘がなされてきた。児童生徒の多様な実態に応じるべく、いつ、何をどのように指導するのかは、各教員の裁量によるところが大きく、その考え方や扱い方については様々な検討（例えば、名古屋 2004）を巻き起こしてきた。このことは現代においても、一部の教員にとつての課題（特総研 2006）として残されている。これらの課題に対応するために作成する個別の指導計画についても、内容の妥当性や活用状況に関して教員の悩みや課題（中尾・村田 2019 など）が見られる。天海ら（2021）は、特定県内の特別支援学校の調査を通して、教育課程編成上の課題と合わせて、個別の指導計画への教員の理解を深めること、障害の重い重複障害者についても、各教科等の指導の可能性を検討する必要性があることを指摘している。

新しい特別支援学校小学部・中学部及び高等部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）においては、育成を目指す資質・能力が明確化され、各教科等の目標や内容について整理された。教員の過度な負担にならないよう配慮しつつ、児童生徒の発達の様子や指導の記録を教科等の系統性に照らして整理、視覚化して蓄積することが、評価の充実、指導目標の精緻化に繋がると考えた。

そこで本研究では、知的障害特別支援学校における目標と評価の還流、個人と集団の還流を支えるツールを目指し、Microsoft Excel 365 を用いた情報システム「還流型システム」の開発を行う。このことにより、個別の指導計画、年間指導計画、授業づくりの一連の流れ、児童生徒の学習状況を日々の指導に活用できる管理システムの構築を目指す。

（方法）

1. 実装項目の検討

本研究では、学習指導要領の各教科の目標、内容を基に授業計画し、学習を評価、蓄積することを目的とし、教科に関するシート、指導計画に関するシート、学年の児童生徒の状況を集計するシート、集計結果を踏まえて授業計画を進めるシートを設定した。

2. システム開発

Microsoft office365 ProPlus(Ver.1908)の Excel にて作動するシステムを開発した。システム全体は、個人について長期的にデータを蓄積する「個人データファイル」と、学年等のまとまりで同一フォルダに収納される個人データを集計する「学年集計用ファイル」の 2 種類で構成した。

2-1. 個人データファイル

国語科、算数・数学科については、山元、笹原（2020）による「ラーニングマップ」をデータ化した（図 1-④部分）。

生活科については、学習指導要領に記載される生活科の目標及び内容についてチェックリスト化した。当面はこの 3 教科を対象とする。これらのシートで課題としてチェックした項目は、「個人チャートシート」や後述の年間指導計画に関するシートで参照できるようにリンクをつなげた。

次に、「個別の年間指導計画」のシート（図 1-③部分）を作成した。このシートは「個別の指導計画」シートともリンクし、半期の指導目標を参照できるようにした。また、学年の年間指導計画からも内容を転記できる機能を実装した。

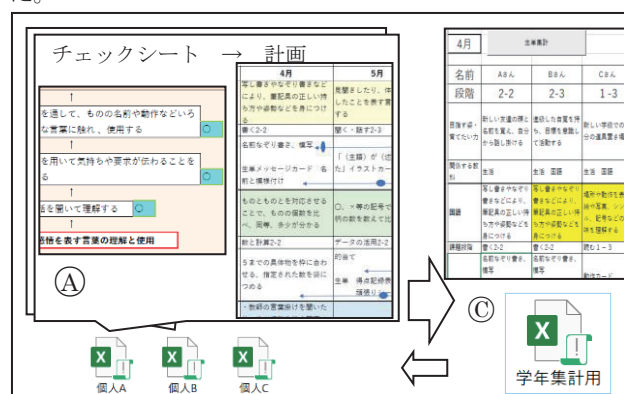


図 1

2-2. 「学年集計用ファイル」について

教科の集計シートを作成した。VBA マクロを使用し、学年の児童生徒の教科の取り組み状況を視覚的に概観できるように集計、チャート化した。それに加え、各教科等を合わせた指導である生活単元学習について、特定月の単元に関して個人を対象に考えている指導目標や単元に関係する教科を集計できるように、「生単集計」シート（図 1-⑤部分）を作成した。

3. システムの評価・改善

現在、現職教員による試用の上、質問紙、インタビュー評価を依頼している。勤務経験の浅い教諭には実際にデータ入力をし、検証中である。熟達者 2 名からは見やすさ、直感的な操作性、計画立案の不明瞭さ等について課題が指摘されている。今後は機能要件と非機能要件の両面からシステム評価を進め、改善を進めていく。

（文献）

国立特別支援教育総合研究所（2006）生活単元学習を实践する教師のためのガイドブック～「これまで」、そして「これから」～ B-198

山元薫、笹原雄介（2020）知的障害のある子どものための国語、算数・数学「ラーニングマップ」から学びを創り出そう ジアース教育新社

(NOBUAKI Tateishi, KAORU Yamamoto)